

## 令和2年度「就労支援部会」中間報告について

## 1 開催日時等

第35回就労支援部会 9月4日

## 2 部会員名簿

団体等名	氏名
特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨（部会長）
特定非営利活動法人 くるくる	鈴木 佳奈
刈谷市障害者支援センター	梶 佳稔
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	加藤 正昭
刈谷商工会議所	岡田 行永
刈谷公共職業安定所	福島 洋子
愛知県立安城特別支援学校	加藤 昌子
商工業振興課	二井 久枝

## 3 報告事項

## (1) 第35回就労支援部会（9月4日開催）

ア 障害者雇用の理解促進及び企業と就労移行支援事業所との連携強化に関する取組みについて

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初予定をしていた「雇用セミナー」の開催が困難な状況となった。この社会情勢の中で障害者雇用について見直し、障害者の一般就労に向けた新たな取組みについて検討するため、新型コロナウイルス感染症拡大により各事業所が受けた影響や企業との連携体制構築に向けた取組みについて意見交換を行った。

(ア) 各事業所が受けた新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

<主な意見>

【良い影響】

- ・Zoomを利用した朝礼の実施、遠隔地で開催されたセミナー等へ参加することができた。

- ・リモートワークについての在り方を考えるきっかけとなった。

【悪い影響】

- ・企業見学や職場体験実習の延期、実習受入先となる企業の減少
- ・障害者合同面接会等の大人数が集まるイベントの開催が困難になった。
- ・各種イベントの中止により販売機会が減少し、売上げが減少した。

(イ) 企業との連携体制構築に向けた取組みについて

<主な意見>

- ・昨年度まで開催していた障害者雇用セミナーの開催は有意義なもの。Zoomを利用するなど、新しい方法でセミナー展開できるとよい。
- ・これまでに付き合いのある実習先企業1社1社を大事にしていかなければならない。
- ・テレワークなど新しい形での取組みについて支援者側が提案できるようスキルを身につけたり、勉強会を開催できるとよい。

イ 市内就労支援事業所における実務的課題解決に向けた取組みについて

平成28年度より就労支援連絡会を開催し、就労支援事業所の質の向上、就労支援事業に関連した地域課題の解決を目的として検討を重ねてきたが、これまでの連絡会で挙げた課題を具体的に解決するため、取り組むことができる事項について意見交換を行った。

<主な意見>

- ・人材不足、人材育成は課題であると感じる。連絡会では、事例検討やケースに関する情報共有をしていきたい。
- ・これまでの連絡会で、自分の事業所の強みがわからないという事業所がある一方、自分の事業所の強みに気づくことができたという意見もあったので、勉強会などできることは継続していきたい。
- ・事業所と行政はお互いのことをよく理解できていないと感じられることがあるので、情報共有していきたい。